

平成20年度南丹市予算

345億3,456万円で 南丹市のまちづくり

～将来を担う子どもたちに負担を残さないために～

平成20年度予算額の内訳

(単位未満四捨五入)

会計名		予算額
一般会計		218億0,000万円
特別会計	国民健康保険事業	37億0,620万円
	老人保健事業	7億3,510万円
	介護保険事業	29億8,740万円
	市営バス運行事業	4,980万円
	簡易水道事業	7億5,710万円
	下水道事業	31億2,220万円
	商品券事業	1,310万円
	土地取得事業	1億0,060万円
	後期高齢者医療事業	4億7,260万円
	企業会計	上水道事業会計
合計		345億3,456万円

平成20年度一般会計、特別会計当初予算が決まり、総額345億3,456万円となりました。今年度予算は、

- ①南丹市総合振興計画※1の将来像を実現する
 - ②行財政改革を反映する
 - ③市民や地域のニーズにきめ細かく柔軟に対応する
- の3つの柱から、生活面を重視した予算となっています。

■予算編成の三つの柱

①「森・里・街がきらめくふるさと南丹市」を実現する予算

限られた財源を、より市民が望むものへ集中するため、経費を徹底的に見直し、市総合振興計画に掲げる「森・里・街がきらめくふるさと南丹市」を実現する、市の将来を見据えた予算に努めました。

②行財政改革を大胆にすすめて、コストを意識する予算

三位一体※2の改革により地方分権が進みました。これからは地方

自治体が自ら考え、施策を行う時代となり、行政経営の優劣がはっきりと市民から問われる「自治体選別の時代」です。

市町村の格差は、これからますます広がっていくと考えられ「どこに住んでも同じサービスを受けられる」という時代は終わりを告げました。そのため、改めるべきところは改め、伸ばすべきところは伸ばす「財政基盤の強化」が、最も優先すべき課題です。市では将来に向けてコストを意識した予算に努めました。

③市民や地域のニーズにきめ細かく、柔軟に対応する予算

事業の選択と集中を基本に、「子育て」「福祉」「教育」「安心安全」など市民生活に直結し、住みやすさが実感できる事業への重点化に努めました。

■平成20年度予算について

一般会計では平成20年度予算は、前年度と比較して15億8,200万円(6・8割)の減となっています。

歳入においては、市税は企業誘致や新築家屋の増加などにより増